

# ジェンダー研究所

## 2024年度事業報告書によせて

ジェンダー研究所長 戸谷 陽子

お茶の水女子大学ジェンダー研究所 2024 年度の事業内容および活動の報告をお届けします。

本年度も、所長以下、専任教員、研究員、研究系および事務系のスタッフが協力して研究教育活動および研究交流を進め、日本におけるジェンダー研究の国際的研究拠点として、高水準の研究プロジェクトの実施、国際シンポジウム・IGS セミナー等の開催、学術雑誌の刊行、教育プログラムの実施、国際的学術ネットワークの構築と研究交流の実践、研究成果の発信と社会還元といった事業において、いっそうの成果を上げることができました。

具体的には、国際シンポジウム 2 件、国際ワークショップ 1 件、IGS セミナー 5 件、研究会 1 件を主催したほか、後援・共催の学術イベント 2 件を開催しました。また、IGS 刊行の学術ジャーナル『ジェンダー研究』では「グローバル政治の中のセクシュアリティと暴力」を特集テーマとしました。前年度に当研究所が開催した国際シンポジウムでの議論をもとに、セクシュアリティ／ジェンダーが、グローバル政治の領域において、監視・管理・保護・処罰の対象として権力関係のうちに定義されてきたこと、それを根拠に戦争や暴力が発動・行使され、正当化され今日に至っているかを綿密に考察し、問題を明確にする視座を提供する秀逸な論文を掲載しております。

一昨年より本格的に再稼働した海外との研究交流活動も、新型コロナウイルス感染症による活動制限時に得た経験知を活かし、オンラインと対面を丁寧に組み合わせ、着実に企画を充実させました。タイ AIT (アジア工科大学院大学) との交換ワークショップでは、先方から院生 2 名を受け入れ、本学からは 8 名の院生を派遣し、調査の活動範囲も大幅に拡大して充実した成果を得ました。また、ノルウェー科学技術大学 (NTNU) ジェンダー研究センターからは NTNU の研究者と院生が来日して複数回のフォーラムを開催、研究交流を行ったほか、本学からも複数の院生を NTNU に派遣しました。そのほか本学サマープログラム参加のため NTNU から来日した短期留学生、博論を執筆する博士後期院生の指導助言にも力を入れています。2023 年に終了したノルウェーリサーチカウンシルの国際共同研究助成金 INTPART による共同プロジェクトは、ノルウェー高等教育・技能局との事業に発展的に引き継がれ、UTFORSK プロジェクトとして交流を続けています。

当研究所の目的は「ジェンダーに関する総合的、国際的な研究および調査を行うとともに、ジェンダー研究者の育成に資する。」と規則に定めており、ジェンダー研究発展のための使命と責任を日々実感する次第です。これを基本理念として、今後も本研究所は確固とした学術的研究成果に支えられた、研究・教育その他の実践活動を推し進め、よりよき社会への還元と啓発を続けてゆく所存です。日頃ジェンダー研究所の活動をご理解くださり、ご支援・ご協力をいただいておりますみなさまに心より御礼を申し上げますとともに、今後ともいっそうのご指導・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。